

令和5年度愛知県献血推進協議会議事録

(1) 日時・場所

令和6年1月30日(火) 午後2時から午後3時30分まで
愛知県庁本庁舎6階 正庁

(2) 出席委員(17名)(順不同、敬称略) (注)◎:議長

児島 正幸、磯村 延宏、倉元 須麻子、伊藤 和子、澤田 和幸、
山本 格史、本多 恭子、木下 朝博、大橋 優斗、田那村 収、
佐藤 公治、松下 正、中村 清、村松 智恵子、子安 春樹、栗木 雅洋、
◎森 一明

(3) 代理出席者(5名)(順不同、敬称略) (注)カッコ内は委員氏名

清水 俊次(佐久間 啓彰)、伊奈 宏伸(阿部田 洋)、
伊地知 毅(竹内 清美)、中村 修一(判治 忠明)、
佐藤 雅則(沼澤 弘平)

(4) 欠席委員(5名)(順不同、敬称略)

安達 一樹、岩田 政久、小澤 有加、神谷 和利、撫井 賀代

○ 開会

医薬安全課・稲熊担当課長

ただ今から「令和5年度愛知県献血推進協議会」を始めさせていただきます。

それでは、開催にあたりまして、愛知県保健医療局生活衛生部 森部長から御挨拶申し上げます。

1 挨拶

愛知県保健医療局生活衛生部・森部長

本日はお忙しい中、「令和5年度愛知県献血推進協議会」に御出席いただき、ありがとうございます。

はじめに、元日に発生しました、能登半島地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。また、日本赤十字社はじめ、本日、御出席の皆様方には、日頃から献血の推進に御協力頂き、深く感謝申し上げます。

さて、本協議会は、愛知県における献血の普及啓発、そして、血液を安定的に確保・供給するための体制づくりについて協議するために開催するものです。

関係の皆様のおかげをもちまして、今年度の本県における献血者は、12月末までに22万人を超える方々に御協力をいただいております。

これは、今年度の献血目標の77.2%にあたり、計画どおり順調に進んでおります。これも、皆様の日頃からの熱心な推進活動の賜物であり、大変ありがたく、心強く思っております。

しかしながら、少子高齢社会を迎え、血液製剤を必要とする方が増える一方で、献血できる方の人数は減少しつつあります。加えて、近年は若い方の献血率が低く、血液事業を安定的・継続的に維持するためには、広く県民の方々に献血に対する理解を深めていただくため、引き続き皆様の御支援をいただきながら献血推進の各種取組を進めてまいりたいと考えております。

本日は、「令和6年度愛知県献血推進計画」の策定に当たりまして、委員の皆様から御意見・御提言をいただき、今後の施策・取組に反映してまいりたいと考えております。

最後に、本日の御出席者共通の願いは、安心、安全な血液製剤の安定供給を通じた県民の皆様の健康だと思っております。その願いに向かって共に考え、共に行動していきたいと考えております。

本日は、よろしく申し上げます。

資料確認・議長選出

医薬安全課・稲熊担当課長

会議の内容につきましては、「愛知県献血推進協議会設置要綱」の第6第2項により、原則として公開することになっております。後日、本日の会議録を御出席の委員の皆様にご確認いただいた後、当課のホームページに載せさせていただきますので、御承知ください。

続きまして、本来ならここで、御出席いただきました委員の方々をお一人ずつ御紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りしております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

ここでお手元の資料の確認をお願いします。

(資料の確認)

もし足りないようでしたらお知らせくださいますようお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、議事に移らせていただきます。昨年度議長に選出された愛知県保健医療局生活衛生部長の小栗が異動となりましたため、会議の議長は、後任の森が務めさせていただきます。

よろしく願いいたします。

2 議題

議長・森部長

それでは、よろしく申し上げます。

本協議会は、献血思想の普及や安全で良質な血液の安定確保などのため設置されております。そのため、本日は是非皆様の御意見・御提言等を賜り、また御協議願いたいと思いますので、よろしく申し上げます。

では、早速議事に入りたいと思います。皆様方の御協力をいただき、スムーズな進行が出来ますよう、よろしく申し上げます。

それでは、「議題」に入らせていただきます。

なお、御意見等につきましては、すべての議題が終わった後で、一括してお伺いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

始めに、議題（１）の「令和５年度愛知県献血推進計画の進捗状況」について、事務局から説明してください。

（１）令和５年度愛知県献血推進計画の進捗状況について

医薬安全課・竹澤課長補佐

医薬安全課の竹澤でございます。令和５年度愛知県献血推進計画の進捗状況について、説明いたします。

お手元の冊子「愛知県献血推進協議会 資料」の１ページを御覧ください。

はじめに、愛知県における年度別献血目標及び達成状況について、御報告します。

表の下段、令和５年度の献血者数の欄を御覧ください。令和５年度の目標達成状況ですが、目標の286,070人に対しまして、220,776人であり、12月末時点での達成率は77.2%となっており順調といえます。

資料の２ページを御覧ください。２ページ以降の数値につきましては、年度ではなく、１月から12月までの年計となっておりますので御注意ください。

ページ上段を御覧ください。愛知県における令和５年の献血者数は296,142人で、前年より838人増加しております。

ページ下段の全国の令和５年の献血者数は、速報値では5,003,723人となっており、9,147人増加しております。なお、未集計部分は空欄とさせていただきます。

資料の４ページを御覧ください。

年齢別の献血者数の推移です。ページ上段が愛知県の状況、ページ下段が全国の状況で、年齢別構成比のグラフを見ていただきますと、双方におきまして、献血者数は50歳代が最も多くなっております。愛知県では、40歳代及び50歳代で全体の約54%を

占める一方で、10歳代は約4%、20歳代、30歳代は約15%であり、引き続き、若年層の献血者の確保が課題となっています。

ここで43ページ、44ページを御参照ください。平成16年から令和5年までの愛知県と全国の年代別献血状況をお示ししました。これによりますと、本県の人口100人当たりの献血者数を示す献血率において、10代に関しましては、減少傾向にありましたが、平成29年から増加に転じました。しかし、令和2年、3年は新型コロナウイルス感染症の影響により、平成29年程度の割合となっています。そして令和5年は平成30年に近い水準に戻っております。

資料の5ページへお戻りください。ページ中段の移動採血における献血状況ですが、職域における献血者数が全体の5割を占めております。また、ページ下段の職業別の状況を見ましても、会社員が6割以上を占めており、企業、事業所の方に多大な御協力をいただいております。

資料の8ページを御覧ください。その他として、献血者の状況をまとめております。

(1)の回数別実献血者数ですが、1年間に2回以上御協力をいただいた献血者数も増加しておりますが、依然として、1回だけの献血者が約6割を占めております。この方々をいかにしてもう1回献血会場へ足を運んでいただくかが課題となっております。

このほか、9ページから令和5年の市町村別献血実績について掲載しておりますので、後ほど御覧ください。

次に、今年度、献血目標量を確保するために実施した措置について御報告します。

資料の13ページの令和5年度血液事業概要を御覧ください。

まず、(1)の若年層に対する啓発資材の配布についてですが、リーフレット「はじめての献血」を作成し、高校1年生及び新20歳を対象に配布いたしました。

愛知県血液センターと協同し、7月から「10代夏の献血キャンペーン」として、県内の全ての高校2年生、3年生にリーフレットを配布したほか、12月から「卒業献血キャンペーン」として、県内の全ての高校3年生にリーフレットを配布しました。

他に、(2)「はたちの献血」キャンペーンや(3)夏休み親子血液教室を実施いたしました。

次に(4)「複数回献血キャンペーン」の実施では、年2回以上の400mL献血を推進するため、昨年7月から本年3月にかけて「400mL複数回献血キャンペーン」を行っております。

キャンペーンを周知するためのポスターを作成し、市町村や県内の施設などに配布し周知しました。また複数回の400mL献血に協力していただいた方には、記念品を配布しております。

次に（５）「愛の血液助け合い運動」についてです。毎年７月の１ヶ月間、全国一斉に展開されています。

資料17ページで取りまとめさせていただいておりますが、本県でも、市町村における広報誌掲載、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」を活用したポケットティッシュの配布を県内各地において啓発をおこないました。

また、14ページに戻りまして、（７）の愛知県献血運動推進大会を7月28日に開催し、長年献血に御協力いただきました個人及び団体に大臣表彰、知事感謝状等の贈呈及び講師をお招きし、講演会を行いました。

次に献血推進組織等の育成として、（８）のとおり献血推進リーダーへの講演会を開催しました。また、名古屋市や中核市を交えて、（９）の血液事業担当者会議を開催しました。

最後に、（12）の「広報関係事業結果」につきましては、表にありますようにテレビ、ラジオ、新聞等できるだけ多くの媒体を活用いたしまして、献血について広報活動を行いました。

今年度の愛知県献血推進計画の進捗状況については以上です。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進一部長の中津留でございます。

平素より血液事業におきましては、多大なる御理解、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

ただ今、竹澤課長補佐から御説明がございましたが、実際に血液事業を行う立場として私からも少し説明をさせていただきます。

資料1ページの年度別献血目標及び達成状況ですが、供給計画及び国から示された原料血漿確保量に基づき必要量を算定し、過不足のない採血を行っております。令和5年度におきましても、12月までの献血者数の実績で達成率77.2%、年度での達成率も102.1%と見込んでおり、必要量を確保できております。

資料2ページを御覧ください。令和5年の献血者数は、先ほども報告がありましたとおり296,142人、昨年が295,304人でしたので、昨年からの増加数としては838人、0.3%増加しております。

一方、供給数でございますが、7ページを御覧いただきますと、製剤ごとには差があるものの、令和5年の供給数は265,700本、昨年が256,429本でしたので、昨年からの増加数としては9,271本、対前年103.6%となります。

医療機関の需要に対し安定的に供給するために、献血ルームにおいて需要に応じた献血種別を進めたこと、また、成分献血におきましては、献血者ひとり一人の体重に応じた最大採取量まで採血を増量するなど、少ない献血者数であっても効率的な採血

を行うことにより必要な血液量を確保し、本年度も各医療機関の需要に対して安定的に供給できていると考えております。

続きまして、資料のページが少々戻りますが4ページを御覧ください。10代の献血者数については、12,555人でしたので、昨年から1,342人減少しております。資料5ページを御覧ください。高校生は5,461人で昨年から582人減少しております。

10代の献血者数減少につきましては移動採血車の学域への配車数減少が影響しております。コロナ禍の影響を受けた令和4年は、職域への配車が不振であったため、代替会場として大学及び専門学校へ配車した結果、10・20代の献血者が増えました。令和5年は職域献血が回復傾向にあり、学域より採血効率の高い職域への配車を優先し、学域への配車が減少したことは、10・20代の献血者が前年度より減少した一因と考えております。

高校生の献血者数の減少につきましては、高等学校での献血状況は令和4年が13校に対して令和5年は12校と大きな減少はありませんが、献血者数が昨年920人に対して今年は607人で1校当たりの献血者数の減少が主な要因でございます。高校での献血がその後の献血への動機付けに有効であると考えておりますので、高校献血及び献血と併せた事前セミナー等を推進し、少しでも多くの方に献血に触れる機会を提供したいと考えております。

大学生につきましては、学生献血連盟を中心に献血の推進にも携わっていただいております。コロナ禍を経て再開したサマー献血キャンペーンやクリスマス献血キャンペーン等では、同世代に向けた発信力の強さを遺憾なく発揮いただいております。

また当血液センターでは、高校・大学・専門学校の生徒を対象に、今年度12月末までに41回のセミナーを開催し、3,079名の学生に参加いただきました。他にも中学校・高校の職場体験を積極的に受け入れ、輸血用血液の検査・製剤、供給部署の見学や、献血の呼びかけといった業務体験をしていただくとともに、高校生については献血にも御協力いただいております。

将来の輸血医療を支える世代となる小学生、幼少期の方々への献血啓発にも力を入れており、ショッピングモールにおけるイベント等において、パネル展示や献血クイズ等を実施し、献血を知っていただく機会の増加に取り組みました。

献血年齢に達した若者のみならず、将来の献血を支える献血対象年齢未満の児童と保護者に対する献血啓発を本格的に再開できたことは、令和5年の大きな特徴でありました。

また、献血Web会員サービス「ラブラッド」につきましては、昨年度9月にアプリをリリースし、「アプリ版献血カード」や「事前Web問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。現在、231,906名の会員の登録をいただいているところであり、本機能を活用したメールによる会員への献血の協力依頼も行っております。

年間複数回にわたり献血の協力を得ることによって血液を安定的かつ効率的に確保するだけでなく、アプリからの献血予約や検査サービスの閲覧などの献血者の利便性の向上に寄与するラブラッド会員への登録についても引き続き促進してまいります。

説明は、以上でございます。

(2) 令和6年度愛知県献血推進計画(案)について

議長・森部長

ありがとうございました。

次に議題(2)の「令和6年度愛知県献血推進計画(案)」について、事務局から説明してください。

医薬安全課・早川課長

令和6年度愛知県献血推進計画(案)について、説明します。

資料の20ページをお開きください。

20ページから26ページの「令和6年度愛知県献血推進計画(案)」については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第10条第4項の規定により、毎年度、国の基本方針と国の献血推進計画に基づき、翌年度の都道府県献血推進計画を定めることとなっております。

国の献血推進計画については、例年3月頃に告示されるため、現時点では案が示されておりますので、今回は、それを参考に県の計画(案)を作成しました。

事務局としましては、委員の皆様からの本日の御意見を踏まえ、告示された国の計画を確認後に県の計画、「令和6年度愛知県献血推進計画」を決定する予定としております。

はじめに、国の献血推進計画(案)について、資料の27ページを御覧ください。

「前年度からの主な変更点」です。「国が小中学校現場での献血推進活動を含め、献血への理解を深めてもらうための取組を行うこと」を追記しております。

それでは、改めて20ページを御覧ください。令和6年度愛知県献血推進計画(案)について説明させていただきます。なお、下線部分は今年度の計画との変更点となります。

第1では献血の推進に関する「基本的な考え方」を、第2では献血受入計画に関わる県、市町村、血液センターなどの「関係者の役割」について記載しておりますが、年度の修正以外は、今年度と変更はありません。

次に、第3では「献血目標量の設定」についての記載です。21ページの表「種類別目標数」のとおり、新たに設定しております。

献血目標者数は、全血献血において、200m Lが6,610人、400m Lが174,730人、成分献血において、血漿成分が71,370人、血小板成分が34,020人、以上、合計286,730人の献血者の確保を目標とします。

この目標値は、今年度と比較して660人の増となっております。

また、令和6年度の愛知県における献血目標量は、合計1,053,120単位で、今年度と比較して10,800単位の減となっております。

なお、この表でお示ししています献血目標は、令和6年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績と、国が算出した令和6年度の原料血漿の確保目標量、さらに、血液製剤の期限切れや検査不合格等も考慮した上での数量となっております。

続いて、資料の25、26ページを御覧ください。

令和6年度の市町村別の献血目標を示しております。

各市町村の200m L献血と400m L献血の目標は、一番右端の列にある各市町村別の過去3年間の移動採血車の配車実績から算出しております。

また、血漿や血小板の成分献血の目標については、血液センター及び献血ルームで採血しますので、26ページの表の一番下、固定施設に計上しております。

市町村におかれましては、先ほどの20ページの「第2 関係者の役割」の2にありますように、引き続き「血液センターの献血受入計画の実施を確保するため、献血会場の確保等の協力」をお願いします。

それでは、資料21ページの中段を御覧ください。

第4の「献血目標量を確保するために必要な措置」には、献血を推進するための取組みについて記載しております。

第1は、献血に関する普及啓発及び広報活動の実施です。

(1)「若年層、幼少期への普及啓発」のア、高校生、大学生等の若い献血可能な世代を対象としたリーフレット等を作成し、配布します。また、小学生の親子を対象とした親子血液教室を開催し、親子が献血に触れ合う機会を設けます。

続いて、ウ、SNSを含むインターネット等を主体とした情報発信や、報道機関等の協力を得て、実効性のある効果的な広報活動を展開します。

続いて22ページの、カ、血液センターが実施する「献血セミナー」等での体験学習の機会を学校等において積極的に活用してもらえよう情報提供します。

次に(3)の「複数回献血の推進」については、若年層を含む幅広い層に拡大するよう、血液センターと協力し、キャンペーンを実施します。

次に(4)の「献血推進キャンペーン等の実施」では、7月の「愛の血液助け合い運動」、そして現在実施しておりますが、1月から2月までの「はたちの献血キャンペーン」を令和6年度も実施します。

続きまして、2の献血運動推進大会の開催につきましては、今年度と同様、7月に愛知県の献血運動推進大会を開催し、知事感謝状を贈呈したいと考えております。

続きまして、資料の23ページを御覧ください。第5「献血の推進に際し、特に配慮すべき事項」、そして第6「その他献血の推進に関する重要事項等」については、今年度と変更はありません。

なお、28ページから39ページには「新旧対照表」をつけておりますので、参考にしてください。

また、資料の41ページから42ページの資料7には、令和6年度献血推進のための具体的方策（案）をお示ししています。令和6年度も今年度と同様に、各種事業を展開して参りたいと考えております。以上です。

愛知県赤十字血液センター・中津留事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進一部長の中津留でございます。

ただ今、早川課長から御説明がございましたが、令和6年度計画の目標数等の変化につきまして、私から補足説明をさせていただきます。

資料21ページを御覧ください。令和6年度の献血目標人数は、全体で286,730人でございます。前年度が286,070人でしたので、前年度からは660人増加しております。採血区分別では成分献血が1,070人減少しましたが、全血献血は1,730人増加しております。

献血目標は、令和6年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県内での過去の輸血用血液の供給実績、原料血漿の確保目標量、血液製剤の期限切れや検査不合格率等を考慮した数量となっており、今回の増加理由としましては、全血献血から製造される赤血球製剤の需要は微増、成分献血から製造される血漿製剤・血小板製剤の需要は微減と見込んだことによるものです。

なお、原料血漿の確保につきましては、平成15年度以降は毎年度の需給計画を定め、血漿分画製剤の安定供給の確保が図られているところです。

令和5年度におきましては、血液製剤の製造販売業者等の供給見込及び原料血漿並びに製剤の在庫見込のほか、貯留在庫を勘案し、配分量120万Lに対し、原料血漿確保目標量は120万Lでありました。

令和6年度においては、国内献血由来製剤の最近の需要の動向及び血液製剤の製造販売業者等が保有する原料血漿並びに製剤の在庫の状況のほか、貯留在庫の状況を踏まえ、安定供給に必要な原料血漿を確保する観点から、配分量120.0万Lに対し、確保目標量が123.0万Lとされ、令和5年度から3万Lの増加となりました。

こうした全国的な原料血漿の確保目標量の増加により、血漿成分献血については目標人数を増やすことになり愛知県の血漿成分献血につきましては、令和5年度70,920人から450人増加の71,370人を予定しております。

目標人数の増加の理由については、以上となります。来年度につきましても引き続き採血基準の範囲内で献血者の体重に応じた血漿量を採血するとともに、輸血用血液製剤の製造工程においても効率的な手法により、原料血漿の確保に引き続き努めてまいります。

また、本年の事業概要でもお話ししましたが、Web会員サービス「ラブラッド」会員の登録推進と会員アプリを用い献血予約率の更なる向上など、ラブラッドアプリ機能の有効活用により、献血者確保に努める所存です。

また、血液を安定的かつ効率的に確保するため、年間複数回にわたり献血に御協力をいただけるような各種キャンペーンや感染症の流行に左右されず安定的に協力を得られやすい献血ルームへと献血者を誘導する広報活動や移行キャンペーン等の実施を考えております。

次世代への啓発事業としましては、学生だけでなく学校関係者、教員やPTAなど一般の方々を対象とした献血セミナーや施設見学等も積極的に実施し、受講後には献血に誘導できるような取り組みを考えております。説明は、以上でございます。

議長・森部長

ありがとうございました。

それでは、ただいま説明のありました議題を含めまして、委員の皆様からの御意見、御質問がありましたら、御発言をいただきたいと思っております。

それぞれの立場から広く御意見をいただくため、申し訳ございませんが、私の方から指名させていただきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

それでは、愛知県赤十字血液センターの木下委員いかがでしょうか。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

愛知県赤十字血液センターの木下です。

皆様には日頃から血液事業に御理解御支援賜り、厚く御礼申し上げます。

事業については愛知県及び血液センターの方から説明がありましたが、私の方からは委員の立場から、今後の献血推進を考える上で、参考になるようなユニークな事例を紹介させていただきます。

机上配付してあります、事例紹介「高校における学生主体による献血セミナー」を御覧ください。

これは、献血セミナーを愛知県あるいは血液センターから、様々な場所で行っており、血液センター職員がお伺いして講師を務めるというような形でもやっています。

今回紹介させていただく事例は、光ヶ丘女子高等学校、岡崎市内の学校ですが、学生に講師を務めていただくという形で行ったセミナーです。

血液センター岡崎ルームから、高校の担当の先生に、献血セミナーの発表を学生さんで実施していただくということについて御相談したところ、快諾していただき、生徒会の学生さん2名が引き受けていただきました。

最初は、献血についていろいろ勉強していただくということでしたが、話をしていると、学生さんが自分たちも一度献血を経験してみたいということになり、岡崎ルームで献血の体験をしていただきました。

その他いろいろと献血や血液について勉強を進め、学生さんが講師を務めて、それ以外の学生さんの前に対して講義をしました。いろいろ創意工夫も凝らし、けんけつちゃんのカチューシャを自分たちで作ってアピールしたり、血液の量が体重の約13分の1と言われているので、500ccのペットボトルを8本置いて大人の血液量はこれぐらいですということを知りやすく話すなどしていただきました。

同高校と他高校の献血協力実績については、光ヶ丘女子高等学校では、前年度28名の採血数でしたが、このセミナーをやった効果もあってこの年は73名ということで260%に増加しました。

また岡崎市内の他校の状況とも比べますと、受付率が他校では3.7%だったのに対して光ヶ丘女子高等学校では10%ということで、多くの学生さんに協力いただきました。

セミナーを担当いただいた学生さんの感想が書いてあります。時間の都合もありますのでお読みいただければと思いますが、献血に対する新たな気持ちを持っていただけたということが良かったのかなと考えております。

皆様いろいろな場面あるいは組織等で献血の推進に御尽力頂いているところでございますけれども、御案内の通り、少子高齢化が急速に進行しており、将来の献血者確保というものが非常に重大な課題であるということは御承知の通りです。

これをいかにして守っていくかということが肝要ですが、将来の献血のために、地域、職場、学校などで献血の文化風土をより一層根付かせることが重要だと考えております。

本日御紹介させていただきました事例は一例でございますが、このような事例にありますように、私たちと一緒に、献血活動に主体的に取り組んでいただけるような意欲に溢れた方を育成することが大事かなと思います。

特に若年層においてそのような献血に興味を持って取り組んでいただけるような方がいると大変ありがたいかなと思いますので、皆様の関係の方でも、もし興味を持っていただけるような若い方がおられましたら、ぜひ私どもの方に御紹介いただければ大変幸いに存じます。

下に連絡先を記載してございますので御参照いただければと存じます。

なおこの際、資料につきましても再配布と二次利用はお控えいただけるようお願いしたいと思います。

私からの発言は以上です。

議長・森部長

ありがとうございました。事例紹介をいただきました、ただいまのお話につきまして、どなたか御質問等ございましたら、よろしくお願ひします。

(質問事項なし)

よろしいでしょうか。

それでは次に参りたいと思います。次に、実際に医療を行うお立場から、愛知県医師会の田那村委員いかがでしょうか。

愛知県医師会・田那村委員

愛知県医師会の田那村です。

病院のドクターから血液製剤が少し在庫不安定だったというようなことが言われていましたが、令和6年度の献血目標から血漿成分献血などで一応確保するというを確認させていただきました。

今、能登半島地震があつて、今回は外傷の被害が非常に少なかったのですが、災害が起こった時、愛知県としては、非常時に他県と、血液製剤のやりとりというのがどうなっているかということを確認したい。

もう1つは若者たちの梅毒等が増え、献血ではスクリーニングしていて、その陽性率が上がっているのかどうかや、陽性だった人のフォローをC型肝炎やB型肝炎を含めて、教えていただきたい。

議長・森部長

ありがとうございました。

2点御質問をいただきましたが、1点目は、発災時の血液のやりとりで、もう1点が、若者の梅毒につきまして、陽性時そのフォローということで事務局いかがですか。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一副部長

血液センター献血推進課の鈴木と申します。よろしくお願ひします。

お話のありました発災時についてですが、現状、発災がない状態でも北陸方面との血液のやりとりは毎日行っています。

通常では石川県血液センターから1日に2回血液が送られてくる、逆に送り込むというようなことをやっておりますので、今回の震災でも通常と同じような形の血液のやりとりです。

ただ、ここから先の話では、能登地域は昨年2月から3月の期間で、約1,500単位、大体2ヶ月で700名から800名ぐらいの方から献血に協力いただいております。今後、その分の御協力がいただけなくなる可能性があります。その減少分に関しましては、東海北陸ブロック7県に加えて、全国の方から支援を受けながら、補填をしていきます。

その際には、一旦愛知県に血液が入ってそこから、血液搬送便で毎日他県と血液のやりとりをしていく形です。あとは災害等で高速道路等、雪などで通行止めになった場合などでは、実際に2年ほど前、東京駅で新幹線を利用し、血液の中継を行いました。北陸新幹線で石川製造所のスタッフが東京駅へ向かい、愛知県にある東海北陸ブロック血液センターのスタッフが東京まで血液を持って行くというような形で血液の受け渡しを行いました。現状、血液のやりとりに関しましては毎日行っている状況でございます。以上です。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

私の方から肝炎など感染症のことの御質問に回答します。

血液の安全性を確保するための検査は、すべての血液について実施しています。検査結果の通知を希望された献血者の方には、結果を通知させていただいております。

最近はラブラットというアプリ、Webなどでも検査結果を見ることができ、なおかつ、はがきでも通知しています。アプリなどでは、はがきよりも早く御覧いただけるようになっています。必要な場合には医療機関を受診していただくようにおすすめしています。

議長・森部長

次に、一般社団法人愛知県病院協会の、佐藤委員いかがでしょうか。

一般社団法人愛知県病院協会・佐藤委員

愛知県病院協会の佐藤です。

ただ今アプリ「ラブラット」の紹介がありました。

若い人への啓発活動は、ポスターを貼っても難しいと思います。アプリを使用してその効果や、また違うインターネットでのSNS企画とかそういうことがあれば考えてください。

議長・森部長

ありがとうございました。

アプリとその効果について、事務局からよろしく願いいたします。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

アプリについては、献血の予約をしたり、献血ルームで行う問診を事前にしたり、検査結果の確認をする機能があったりします。それ以外に、いわゆる通常の会員以外でも、プレ会員という献血年齢に達しないような方にも、アプリで登録していただくと、献血・血液についての情報があり、献血啓発活動にも資するものと考えております。

それ以外にもSNSを使った、血液センターとしての情報発信は常態的に取り組んでいて、いろいろな媒体を通じての広報活動に注力しているというところですか。

議長・森部長

ありがとうございました。

裾野を広げていくということでございます。

それでは、名古屋大学医学部附属病院の松下委員、よろしく願いします。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

資料43ページ、44ページに、年代別の献血率があります。最近の傾向で、今一番、献血率が高いのが50代、その次が40代となっていて、60代の献血率ではちょっと前は1%のところ4%に増えています。この変化は、毎年統計とっていて、一年ずつ年齢を取っていくので、例えば、今、去年40代だった人が、今年50代だったので、50代人が増えたように見えるとか、あるいは継続的にこの50代の献血率が上がっているのかということ、例えば生まれ年別にこのグラフ作ったときにどうなるのか。1954年生まれから10年刻みでやった献血率とかもわかるのではないかとということです。

議長・森部長

はいありがとうございます。

年代別献血率の推移、その変化の読み方について、詳細に御説明いただければと思いますが、よろしいですか。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一副部長

50代が今多いというところですが、10年前はやはり40代が多く、同じ年代の方が献血に御協力をいただいているというところが見受けられます。

私も50代ですが、高校生のときには、高校に移動採血車が来て、良い悪い別にし、先生に献血行ってこいと言われて、献血に触れ合う機会がこの年代の方たちが非常に多かったというところがございます。

そこから、当時は200m L献血のみでしたが、医療需要で400m Lが主流になってきたことによって、高校献血が縮小してきたという経緯があります。今の20代30代の方は高校生のときに献血する機会が、私たちの年代に比べて非常に少なくなり、このところで現れてきておると思います。

10年経つと、60代の方が献血を支えることになってきますが、その先10年になるとその方たちが卒業していってしまいますので、やはり今若年層のところを、高校生、大学生っていうところに力を入れとるとするのはそういうことです。以上になります。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

50代は団塊ジュニアなので、人数が多い。資料が献血率なので、その多い人数の中でも、献血に来てくれる人が多いっていうのは、今おっしゃったような状況にあると思います。その後、日赤が200m L献血をやめてしまって、若年層がなかなか献血を知らなくなってしまったという経緯もあると思います。今後の施策に何とか生かしてもらえればと思います。以上です。

議長・森部長

ありがとうございます。御意見いただきました。

それでは、次に参ります。

先ほど説明にもございましたが、献血に御協力いただいております方々のうち、約6割が会社員・企業の方々となっております。

多くの会社、企業が会員となっております。愛知県商工会議所連合会の児島委員いかがでしょうか。

愛知県商工会議所連合会・児島委員

児島です。よろしく申し上げます。

愛知県並びに本事業に参画いただいている各行政の方々、団体の方々におかれましては、日夜御尽力いただきまして、本当に感謝いたします。

本日、御報告と計画についての話を伺い、長期的目線に立つと、若年層に対する理解を一層深めるというところに課題がある認識だと思えます。それに対し、従来の地域や職域に加えて、若年層へのアプローチを強化するため、SNSやアプリの開発など様々な手法を用いて取り組まれていることから、引き続き、いろんな方策を試して

いただきたいと思います。その上で、取り組みの効果検証を行っていただき、よりよい仕組みづくりをしていただくことが重要だと感じます。

また、当団体では、地元企業中心に情報発信することができますので、広報協力などができればと思います。

議長・森部長

ありがとうございました。

今後も協力をとということで御意見をいただきました。

同じく、多くの企業が加盟しておられます、健康保険組合連合会愛知連合会の本多委員いかがでしょうか。

健康保険組合連合会愛知連合会・本多委員

健保連愛知の本多でございます。

私どもも献血は非常に大切な事業だという認識のもと御協力していきまして、愛知連合会のホームページにも「献血に行こう！」というバナーを張るなど、周知・事業推進の協力もさせていただいております。

私どもの健康保険組合をはじめとする医療保険者というものは、適切な医療の給付を行うとともに、加入者の皆様方の予防や健康づくり活動にも力を入れておりまして、国民皆保険制度の維持というところも目指しています。

そもそも献血というものは、健康な方が血液を提供するという仕組みですので、より多くの方が健康であること、安全、安心な医療の提供を受けられるような活動が大切だということを認識しています。企業という点では、私は愛知連合会に来る前が、JAグループ、農協関係の健康保険組合の保健師しており、名古屋市の中区のJAあいちビルの方にも、毎年献血車をまわしていただいて、従業員の皆様方に献血を協力していただくというような仕組みを、大切にしていました。

このように、働く世代も今後高齢化していきます。病気を抱えた方もおり、安定的な、供給を保つということも課題が多くあることだとは思いますが、医療保険制度の強化ですとか、持続可能な医療提供する上でも、大切な事業だという認識をし、理解していますので、今後とも御協力していきたいというふうに思っています。以上です。

議長・森部長

御協力を頂き、ありがとうございました。

次に、日頃から献血の推進などについて、地域に密着した活動をしていただいております、ライオンズクラブ国際協会334-A地区の磯村委員いかがでしょうか。

ライオンズクラブ国際協会334-A地区・磯村委員

磯村です。よろしくお願いいたします。

334-A地区というのは愛知県のライオンズクラブ全域の地区で、私は今年度の保健福祉委員長をしています。

日頃、ライオンズクラブといたしましては取り組みの一つとして、献血に重きを置いて取り組んでおります。今年度は15,000人を目標にして、計画通り進めているところです。

愛知県の目標からしますと微々たるものかもしれませんが、1人でも多くの方に献血していただきたい、献血者を増やしていきたいというふうに思っています。

日頃、私も献血の取り組みを行っていますが、その感触としては、先ほどの意見や報告の中にもありましたが、200mL献血ではなくて、400mL献血の需要が多いということで、400mL献血の献血活動をしております。

そうすると、最近の女性の方は、やせている方など、なかなかその基準に満たない方も結構いたりします。

あとは、献血していただける方の基準がこの御時世どんどん厳しくなっていて、薬の影響等でできないかなど、呼び込みお願いをするものの、結局はできなかった人も多い。もともと、若いころから献血していただいている方は、呼び込みをしなくても、献血に来ていただいて、毎年、毎回のようにはやっただいていますが、やっただいてない方を推進していくっていうのは、なかなか大変で、呼び込みをしたものの、結局は駄目だったとか、そういうこともありました。この基準はなかなか変えられないとは思いますが。

また、日頃日本赤十字の方から、若年の方の献血が少ないということを聞いていまして、若い方を重点的に呼び込み、啓蒙活動をしています。最近では学校での200mL献血というのがなくなった影響もあり、なかなかあまり身近にない状況で、なかなか難しいなというふうに、いろいろ取り組みをしながら考えています。

今年度の計画にもありましたように、若年層に対して、中学高校等で、献血セミナーとかをやっていききたいというようなことが書いてありましたので、ライオンズクラブといたしましても、各クラブに対して、タイアップして、中学校高校でセミナーを開催していただけるようなところを探し、ライオンズクラブがそういうセミナー開催の橋渡しで、啓蒙に関わりたいなというふうに考えています。

こちらの内容につきましては、ライオンズクラブの方の委員会の方に持って帰って説明をしたいなというふうに考えています。以上です。

議長・森部長

御協力いただきましてありがとうございます。

今後もセミナー開催等の橋渡しもしていただけるということなので、よろしくお願いいたします。

次に、女性の立場を代表いたしまして、愛知県地域婦人団体連絡協議会の倉元委員いかがでしょうか。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉元委員

私たち愛知県地域婦人団体連絡協議会は、各市町の地域婦人団体連絡協議会、もしくは婦人会、女性の会員の集まりですが、それぞれ赤十字奉仕団の母体となっている婦人会も多々あります。今、この若年層・幼少期への普及啓発をお伺いして、できることがあるなと思いました。

私たちは婦人会の中で、炊き出し訓練などをやるときに、若い世代の方々や、子供を対象にやることが多いですので、その中に、この献血の啓発を入れさせていただいて、啓発をするといいいのかな、私たちにできることがあるなと思いました。

また、アプリで、特にゲーム感覚のアプリができると面白いのかな、血液が落ちてくるような、そういうゲームがあるとちょっと子供たちは喜ぶのかなとか、献血という言葉自体を知ることができるのかなと、ふと思いつきました。

そういったことでお力になればいいかなと思っております。以上です。

議長・森部長

ありがとうございました。

若年層への啓発ということで、アプリへの御意見をいただきましたので、事務局も参考にいただければいいかなと思います。

同じく女性の立場を代表しまして、名古屋市地域女性団体連絡協議会の伊藤様、いかがでしょうか。

名古屋市地域女性団体連絡協議会・伊藤委員

若年層の献血の教育っていうのが、今の教科書の中で、入っているかどうか、小学校の教科書、中学校の教科書などに献血の大切さが記載してある教科書っていうのがあるかどうか聞きたいと思います。

今、やはり若年層だというわけで、今は50歳代って言われて、ちょうど50歳だっていうと、私どもの子供の年齢ですけども、その頃だと、かなり献血っていうのが言われた時代だったと思います。それがなぜかいつの間にか消えたような状態です。

私どもこの間はファミリーデーをやったときに、PTAのお母さんとか子どもはかなり集まりました。そういうときに献血は大事だよって、献血の大切さを、教えてくれるのではないかなと思いますので、いろんな場所に献血の広報をしていただきたいと思います。

教科書の中に献血が書いてあるかどうかお尋ねしたいです。

議長・森部長

ありがとうございました。

献血につきまして教科書に記載等があるかどうかという質問がありましたが、事務局、委員の皆様方で御発言ございましたらよろしく願いいたします。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一副部長

献血推進課鈴木です。

今のところ小学校、中学校の教科書に記載があるところはございません。高校の教科書で載っているものがあるという認識をしています。以上です。

愛知県教育委員会・中村課長補佐

愛知県教育委員会の中村です。今の教科書については、国が定めております学習指導要領に基づいて作られています。高等学校の学習指導要領におきましては、教科「保健体育」の我が国の保健・医療制度という単元の中で、献血の制度について適宜触れると記載があります。小中学校の教科書の中で触れているところはおそらくないのかなと思います。

愛知県赤十字血液センター・木下委員

血液センターの木下です。もう御存じの委員もおられると思いますが、資料5の中にある通り、今年、国の骨太の方針の中に、小中学校での献血推進活動が位置付けられました。

学習指導要領のことについては今御案内があった通りかなと思いますが、赤十字の方では、若年層の教育ということは非常に重要視しておりまして、小学校4年生だと思いますが、小学生を対象にしたその献血・血液についての教育参考資材を作成中、あるいは作成して配布したのかなと思います。資材を参考に教育現場でも、献血啓発、あるいは献血推進について少し触れていただくような機会を作っていくというような動きがあることについて御案内しておきたいなと思います。以上です。

議長・森部長

貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

それでは今お話が出ておりましたが、今後の献血を支える若い世代への献血啓発活動につきまして、愛知県学生献血連盟の大橋委員いかがでしょうか。

愛知県学生献血連盟・大橋委員

愛知県学生献血連盟の大橋と申します。よろしくお願いします。

我々は、SNSを主に使って、なるべくポップに、固くならず伝える活動をしています。

献血は医療に直結する単語になりますので、どうしても身構えちゃうというような意見を同世代からもかなりいただいています。なので私たちも個人的にそういうお話をしたり、団体として、セミナーをもっとポップにやっっていこうっていうので、いろいろ資料を作成しています。

赤十字さんからの事例のように、私個人的にも高校のときに、セミナーを通じて、献血を初めて知りました。

その当時は、コロナ禍でもありましたので、教員がセミナー講師をやったのですが、今回の赤十字さんの事例のように、学生や生徒という近い年代の方から、献血ってこういうものだよっていうふうに話していただくことで親近感がわく、じゃあ僕も私もやってみようっていうような気持ちになれるっていうようなものを私たちは狙っております。

ゼロを一にすることを非常に大切にしているので、私ももしセミナーとかに参加できるようでしたら、赤十字さんどうぞよろしくお願いします。以上です。

議長・森部長

ありがとうございました。

関連になるかもしれませんが、愛知県私学協会の澤田委員、いかがでしょうか。

愛知県私学協会・澤田委員

私学協会の澤田です。

先ほど中津留様より高校生の献血者数が減少していて、その原因が学域への配車数の減少であるという御説明がありました。おっしゃる通り、高校生は献血を嫌がっているわけではなく、大橋様からもありましたが、単純に知らないということです。

高校生は毎日、大量の情報のシャワーを浴びています。授業もそうですし、スマートフォンからも大量の情報を浴びている状況ですので、我々がリーフレットを配ってアピールしたとしても、あくまで数ある情報の一つでしかなく、おそらく一瞬で彼らの目の前を過ぎてしまうでしょう。高校生がそのような状況に置かれている中において、光ヶ丘女子さんのこの取り組みに関してはやはり素晴らしいなと私は思いました。

セミナーのレクチャー方式で生徒たちが知ることも重要ですが、高校生たちが自分たちで献血ってどのようなものなのか、採血されたものがどのような流れでどこへ行くのかとか、そこにどんな問題があるか調べて、例えば発表させるとか、そのあたり

のことができ、献血の現状を理解したら多分彼らは進んで献血するのではないかなと私は考えています。

そこにおいて、知識の少ない一般教員ではなくてやはり赤十字様に何らかの御協力いただいて、先ほど磯村様からタイアップという話がありましたが、何らかのそのような取り組みができれば高校生の数は増えるのではないかなと私は考えます。以上です。

議長・森部長

ありがとうございました。

献血の推進には報道機関も大変大きな役割を果たしておられます。そういったお立場から中日新聞社の中村委員、いかがでしょうか。

中日新聞社・中村委員

本日、献血の啓発に関して、いろいろ御説明を伺い、リーフレット作成や様々なキャンペーンなど大変意義のあることだと思いました。

その中でも、光ヶ丘女子高等学校の取組などは、参加した生徒本人、それからその周りの友人たち、さらに学校等、点から線、さらに広がるような取り組みとと思いました。来年度以降、こういった新しい形のセミナーや取組等あれば、私ども報道機関でするので、新聞で紹介させていただければ、さらに、他の学校や他の同世代の人たちも、関心を持つと思います。従来のリーフレットの作成やキャンペーンに加えて、こういった取り組みがあれば、ぜひ情報提供していただけるとありがたいなと思います。

やっぱり、1つの取り組みが大きな波及効果を生むには、情報を共有することが大変重要です。今回、能登半島地震で、テレビや新聞、Web等で現地の方の情報が出ることで、ボランティアへ行こうとか、義援金を出そうとかという大きな広がりになっていると思います。こういうセミナー自体は点の取り組みですが、それを共有することで、新たな効果が生まれると思いますので、ぜひそういう情報は提供していただければなと思います。よろしくお願いします。

議長・森部長

ありがとうございます。

やはりメディアは大変大きな力がありますので、今後も展開していくために、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、行政で広報に携わっております広報広聴課の佐藤担当課長、いかがでしょうか。

広報広聴課・佐藤担当課長

広報広聴課の佐藤でございます。

私ども広報広聴課では県の施策や計画、イベント、様々な広報活動を、新聞、テレビ、ラジオで広報をさせていただいております。

皆さんの話を聞いて思いますのが、啓発、広報というのがいかに大事かということです。

まずは、献血の重要性を県民の方にいかに知っていただくか、献血自体をいかに知っていただくかが重要です。また若い人への広報でも、広報広聴課も若い人への広報はずっと課題となっていて、いかに若い方に届けるかということを考えています。現状ではテレビ、ラジオ、新聞、考えられるメディアに関しては広報広聴課で、各種媒体を使って広報させていただいておりますので、御相談いただければ適切な時期、方法によって広報できるように協力はさせていただきたいと思っています。

ただ、広報広聴課では全県庁分の広報、県庁全体の広報を行っておりますので、各局から、いろんな広報の希望が上がってくる中、献血をどのように取り上げるかというところでは、例年、継続的にやっている広報も当然大事ですが、他の方で新規事業があったりすると、どうしてもそちらの方に目が行って、そういうものを取り上げるということもあります。なかなか新規事業も毎年毎年あるわけではなく、難しいところではありますが、同じ事業でもやり方がちょっと変わり、切り口が変わっていると、先ほどから何回も出ている赤十字さんの献血セミナーとか、高校における献血セミナーでは普通の事業ですが、学生主体という言葉を聞くだけで興味が沸いてくる。

中日新聞さんの話もありましたけど、メディアの方でも取り上げてもいいと思えるぐらいの、面白い、いい事業だと思います。こういった事業がある場合に、いかに県の広報だけではなくてパブリシティとして記者発表をして、いかにマスコミに取り上げていただくか、それが大きな広報になりますので、今年はどういうことやるのだけとか、今までなかった小中学校でイベントやるとかそういうことがあれば、どんどん御相談いただければ、こちらの方も御協力できると思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

議長・森部長

はい、ありがとうございました。

皆様それぞれの立場で活動をしていただいておりますが、発信していかないとなかなか届かないものです。そういったところにも今後力を入れて進めていければなと思っております。

時間の都合がございますので、本来なら全員の御意見を伺うところですが、ただいま御発言をいただいた以外の方で、御意見、御質問等がございましたら、御発言よろしく申し上げます。

一宮市市民健康部保健所長・子安委員

一宮市は、中核市になりまして3年目で、保健所も生まれて3年目です。最初の1年、2年は新型コロナウイルス感染症で、全く新規事業をやる余裕がありませんでしたが、今年度になって、5類に移行して、献血推進についても、少しでも何か新しいことをやろうということで、17ページにある消防本部や環境センターや市役所の本庁舎に、献血車が来ていただきました。また、市役所の関係施設や市内の大学等にポスターを張り出すと同時に、1月には市独自で作成したチラシを駅前図書館や大学に配っております。

さらに、新たな取組としては一宮駅前広場のデジタルサイネージに電子広報をしています。

献血とは違いますが、今同じ課の事業でも、梅毒が非常に増えておりますので、梅毒の検査も保健所に来て受けてくださいというようなことを電子掲示板にも投稿をさせていただいております。以上です。

議長・森部長

ありがとうございました。

一宮市の取り組みの御紹介をいただきました。引き続きよろしく願いいたします。

まだまだ御意見等もあるかと思いますが、そろそろ時間も迫って参りましたが、他にもありますか。

(発言なし)

それでは、いろんな御意見をいただきましたので、事務局は最終的な国の計画と本日の会議の内容を踏まえまして、計画の作成をお願いいたします。

最後に3のその他ですが、事務局から何かございますか。

医薬安全課・竹澤課長補佐

事務局から特に用意しているものはございません。

議長・森部長

ありがとうございます。

それでは以上で本日の議題はすべて終了いたしました。

せっかくの機会でございますので、事務局からの説明以外でも、何か意見等がありましたら、御発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

(発言なし)

それではこれもちまして、令和5年度愛知県献血推進協議会の議事を終了させていただきます。

皆様の御協力によりまして、滞りなく議事が進行いたしましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、皆様方におかれましては、今後とも本県の血液事業につきまして、引き続き御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

ありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

○ 閉会

医薬安全課・稲熊担当課長

ありがとうございました。それでは以上もちまして、本日の協議会を終了したいと思います。本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございました。